ずいそう

3つの印象的エピソード

望月　哲

エピソード1：ゴーイングメリー号の建造

「ワンピース」という漫画をご存知でしょうか！絶大な人気を誇る海賊達の友情物語です。

10年ほど前のある日，突如フジテレビの編成部から二人の仕掛け人が，お台場の海にゴーイングメリー号を走らせたいので造ってくださいと，漫画の切り抜きを片手に現れました。

なんとその切り抜きこそ「ワンピース」に登場する海賊船「ゴーイングメリー号」だったのです。

あまりに唐突で，しかも漫画に登場するそのままの姿でしたから，一瞬戸惑ったのですが，営業に転籍した最初の年，これは絶好の受注チャンスとばかりに，勢いで「やりましょう」と答えてしまったのです。

それから半年，漫画のイメージに近づけるには，乗客の安全を確保する為にはなど，悩み苦しみ，やっとの思いでフジテレビの，夏のイベントに登場させることが出来ました。

お台場に登場したその「ゴーイングメリー号」は大人気アトラクションとなり，「レインボーブリッジ」を回る航海から戻った家族づれや若者達の満足げな微笑みがこぼれた時，今まで味わったことのない，もの作りへの感動が生まれました。

そして，それは何物にも代えがたい一生の宝物となりました。

エピソード2：フローティングドックの改造

ケーソンは防波堤などを構成するコンクリート構造物です。

東北の震災でこのケーソンが破壊され流失してしまったという話は記憶に新しいところですが，この震災をさかのぼること3年，私はケーソンを洋上で建造するフローティングドック（以降FD）の改造に一夏，明け暮れていました。

通常ならどこか造船所のドックに入渠して改造するのですが，この時は予算も適当なドックもなかったので，已むなく外乱の少ない入り江に停泊し改造をすることにしました。

方法は船底が見えるまでFDを傾け，新たな浮力体（鋼構造物）を側面と前後に溶接にて取り付ける工事でした。

もともとFDにはたくさんのバラストタンクがあり，縦横に傾斜させることは朝飯前なのですが，その時はまるで映画タイタニックのラストシーン宛らに傾いていました。

想像以上に傾いていたものですから，あらゆる条件で計算し安定性を確認するも不安は払拭できず，さらに台風までもが追い討ちをかける始末，不安はピークに達していました。

そして運命の台風一過，十字を切って朝一番で駆けつけるとFDは相変わらず船体を大きく傾けてはいるものの元の場所に不動明王の様に鎮座していてくれたのです。

ホッと胸を撫で下ろす傍らに100 mmほどもあるもやい綱が何本も切断され台風との戦いの激しさを物語っていました。

そして切断されたもやい綱の周りを赤とんぼが悠然と舞って，一夏の私の熱い戦いは終を告げました。

今でもその季節に赤とんぼを見かけるとその無鉄砲な工事が神がかりでうまくいったことにひたすら感謝して心の中で工事の神様に手を合わせています。

エピソード3：ギャングウェイの製作

阪神・淡路大震災の復興のシンボルとして，神戸港に豪華客船「クイーンエリザベス2号（以降QE2）」が入港することになりました。

しかしその時，船と乗降施設とを結ぶ移動式の渡橋ギャングウェイが全て震災で破壊されていたので，急遽新たに1基製作することになりました。

そして私はその設計プロジェクトに駆出されたのですが，当該機は走行・昇降が複雑な油圧システムで，船舶設計が専門の私にとっては少々重荷，常に製作状況が気になっていました。

そこで作業員の質問・非難攻めにあわないよう昼間を避け，夜中懐中電灯を首からぶら下げてそっと製作状況を探りに行くことにしました。

今になって考えてみると，暗く静まり返った空間を懐中電灯の明かり一つを頼りにウロウロ歩き回る自分の姿が惨めで滑稽に思えて仕方がありませんが，その時は相当必死だったのでしょう。

油圧配管に至ってはあまりにもその量が多く複雑だった為，設計している自分でさえ混乱寸前，そして納期の迫る中，恐る恐る開始した始動試験で種々油圧機器が計画通り動き始めた時は自分でも驚きと衝撃でした。

あれはきっと天使の仕業だっただろうといまでもミラクルです。

そして予定通り「QE2」は神戸港に入港し，何とか間に合せる事が出来たギャングウェイと「QE2」が一緒にテレビに映る姿を見つめて，少し心地よい疲労感に浸っていました。

――もちづき　さとし　㈱アイ・エイチ・アイマリンユナイテッド
艦船技術部　主幹――